



BAIEIDO-TSUSHIN

# 梅栄堂通信

Vol.48

'07 新春号

創業三百五十年  
梅栄堂秘伝の香りを  
今後ともよろしくお願いたします。

■最高級線香

## 家伝好文木

「家伝好文木」は皆様からご好評いただいております  
“好文木シリーズ”の中でも最高級のお線香でございます。  
現在たいへん希少となりました極上天然沈香、白檀をはじめ、  
約二十種の天然香料の特色を生かし、当家に伝わる秘法を  
もって丹念につくり上げた逸品でございます。  
本物の香り、気品ある漂いをぜひ先様にもお届けください。



●標準小売価格 3,675円 (本体価格 3,500円)



創業三百有余年

# 梅栄堂

〒590-0943 堺市堺区車之町東1丁1番4号  
TEL 072 (229) 4545 (代) FAX 072 (227) 1672  
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>



子が創建したものを奈良時代の前期に当麻氏の氏寺として、現在の地に

近鉄当麻寺駅から歩くこと約二十分、普段は静かな当麻寺の境内は、四月から五月にかけて多くの参拝者で賑わいます。広い敷地内には、中之坊・西南院・奥院・護念院の一つ一つにポタン園があり、各園それぞれ趣向をこらし、色鮮やかなポタンが一斉に咲き競います。

移築したと伝えられています。金堂には国宝の弥勒菩薩像(白鳳時代)をはじめ四天王(重文)、不動明王などが安置され、白鳳時代のすばらしい仏像と出会うことができます。また、この寺をなにより有名にしたものに(中将姫伝説)があります。藤原鎌足の曾孫である藤原豊成の娘であった中将姫は、世を愛い当麻寺に身をよせ、中将法如として仏門に入りました。三十七日間の念仏をとなえた最後の夜、「茎を集めその蓮茎の糸から曼荼羅を織りなさい」という仏の声を聞いた中将姫は、一夜にして、一丈五尺(四・五メートル)の曼荼羅を織り上げました。

このドラマチックな伝説をもつ「当麻曼荼羅」は、平安時代の浄土信仰に大きな影響力を与え、元来は真言宗のお寺でしたが、のちには浄土宗も奉じる「二宗兼宗」の寺となりました。現在では、大和路屈指の「ポタン寺」として人気のある当麻寺ですが、ちょうどポタンが満開を迎える五月には、中将姫が菩薩に導かれて極楽に旅立つさまを再現した「お練供養」の行事も催されます。



見ごろ 四月下旬～五月上旬  
交通 近鉄南大阪線当麻寺下車西へ約二十分  
問合せ 葛城市観光協会 0745(48)2811(代)

## 四季彩々

### 一上山の麓に建つ当麻寺

広い境内はポタンの花で彩られます。

旧年中はいつもながらたいへんお世話になり、ありがとうございます。本年度は、梅栄堂が明暦三年に創業させていたでいて以来、三百五十年目を迎えていたただく節目の年となりました。三百五十年に当たり、記念の商品として『三百五十箱限定の高級お線香』の販売等も企画しております。初心を忘れないよう、いいお線香づくりのため、よりいっそうの努力を重ねてまいりますので、今後ともどうぞよろしく願っています。さて、昨年驚きましたお話をひとつ。

確かお盆の頃だったと思いますが、ある時からコーヒーの香りのお線香「残香飛」の注文が急に増えました。どこからも注文殺到で、お店の品切れだけでなく、我が社の在庫も一時期、底を突いてしまうほどの急激な売れ行きになってしまいました。最初は理由がわからなかったのですが、実はこれにはワケがあったのです。最近たいへんな人気を呼んでいるお昼の番組、みのもんたの『おもしろテレビ』をご存知かと思いますが、ひよんなことから、番組中に浅草のお仏壇屋さんにカメラが入り、

その中で、今売れている商品として「残香飛」が紹介されていたらしいのです。その直後から注文が殺到していたわけで、改めてマスコミの力の妻さを実感いたしました。それにつけても、我が社がここまでやってこれましたのは、皆様のご愛顧のおかげと本当に感謝しております。ささやかではございますが、消費者向けのプレゼントキャンペーン等も考えておりますので、本年もどうぞよろしく願っています。



## 新年あけましておめでとうございます。

温故知新の気持ち大切に、新しい一歩を踏み出せる年にできればと思います。本年もよろしく、お願いいたします。

梅栄堂社長 中田 信浩



写真は伽羅の性質を満足させる緑油系のもので▶  
1980年代は潤沢に供給されていた。

おんこうたんきゅう  
御香探求

米田 該典 (大阪大学医学部医学史料室)

宝物に秘められた香りの謎

奈良の古都の紅葉には少し早い十月の下旬、恒例の正倉院展が始まった。今年には正倉院が開設されてから一五〇年の節目でもある。この正倉院は、光明皇后が夫の聖武天皇の遺愛の品々を献納したことに始まるのは周知のことだが、実は多くの香葉を今に伝えている。しかも、それらの香材を眺めてみると、現在我々が香として使用しているものと、種類も質もそれほど変わらないことに驚く。もちろん二二〇〇余年も経っているのだから、多くのはすでに香り失っているが、蘭奢待や全浅香、さらには小片となった沈香類は今も香りを失っていない。それどころか、現代の理化学機器で分析調査を行っ

し、比較調査を行った結果、ようやく産地を絞り込むことができた。ところで、この調査の途中で判ったことがある。沈香は地域毎に化学成分の構成に特徴があり、産地が違えば香味に大きな違いがあるが、それとかなり狭い地域ごとに特徴があるということである。かつて六国という分類があったが、確かに見事な分類法であると感心せざるを得ないのが現在の心境である。その後も化学分析を行っているが、市場に流通する香木の中では両種の御香に類似の沈香には行き当たっていない。つまり、当時と現在では産地が違っていると思われる。しかし、私は先に産地を絞り込むことができたと言った結果については自信がある。その採集地で聞き取り調査も行った。手許のカードには「香木はあり、売れる

■正倉院に納められた香木を代表する二つの巨大な沈香、それが「兩種の御香」です。一つは東大寺大仏開眼の翌年に聖武天皇によって献納された「全浅香」。もう一つは織田信長など時の権力者によって削り取られたことで有名な「蘭奢待」です。この二つの香木は香道の最高の香りとして扱われています。

たところ、見事なまでに献納当時の香りなど、諸性質を失っていないかった。それは、現在我々が市場で入手できる沈香と様々な視点から比較することができるとは、変質もなく保存されてきたのである。

その中でも、正倉院を代表する宝物と言えなのが、「兩種の御香」と称される巨大な沈香である。共に一メートルを超え、重さも十キロを優に超える巨大なこの二種の香木は、入庫の時代に三〇〇年ほどのずれがあるようだが、化学分析による香りの性質は驚くほど似ている。ところが永年の研究調査時に集めた家伝の香木や流通する各地産の沈香と比較分析したところ、化学的に類似すると判断できる沈香は流通品には見あたらない。ただ、幾つかの名家に伝わる

ことは知っているが、収穫してブローカーに売ったことも市場へ供給したこともない。古いことは知らないが……との返答が多かったことが記録されている。そうだとすれば、沈香の産地は時代によって移動しているということなのだろう。

香りは残り、情報は混乱する

最近、これに類して黙過出来ない事態がある。近年供給される沈香に産地情報の偽りが頻繁に見られるのである。そうだとすれば、そんな物を使った研究データを公表することは後の人々を混乱させるだけに、記録としても残すことはできない。しかし、香木は秘蔵されて、後々まで伝わる。小生が最も活発に分析作業を行っていた一九八〇年代前後は沈香の供給がスムーズで、市場品でも付

香木の中にわずかに残るのみである。時とともに産地は変わる

文化財の材質調査を続ける身としては、素材も産地も判らないとは言いたくない。しかし、何しろ手がかりがない。そこで、自ら産地を訪ね、サンプルを入手しては分析を行うことにしたが、沈香の産地は東南アジアに限られて地域的には焦点を絞り易いとは言うものの、国数は多く、広大である。それでも体力に任せて各地を訪ね歩いては試料を蒐集



沈香の取引の様子 (ベトナム国境近くにて)▶

帯情報は信用に足る物であり、他の差別化の為か、今から見れば驚くほどに詳しい情報が付帯していた。それを思うにつれ、現在、後世に研究結果を残すためのデータ整理を行いつつ、当時(一九八〇年代前後)は実験試料であった香木も温存する必要があるのではないかと思うようになった。このような付帯情報の混乱が、沈香に止まらず、現今流通の香材に多かれ少なかれ見られるのは残念である。正確な情報を確保するため、現地調査は欠かせないようだ。

(終り)



PROFILE プロフィール

米田 該典 (よねだ かいすけ)  
所属: 大阪大学総合学術博物館 薬学博士  
神戸市生  
専攻: 文化財の材質調査と保存の科学  
薬用資源学 薬史学  
薬学時代には正倉院薬物を調査し、博物館へ移籍後は文化財全般に枠を広げ、いつの間にか海外の文化財にまで手を広げつつある。



丈夫で育てやすく、親しみやすい花

## マリーゴールド

花びらに含まれるルテインに注目が集まっています。

春から夏にかけて、あちこちの公園や広場などの花壇で最もよく見かける黄色い花、それがマリーゴールドです。



マリーゴールドは開花期間も長く、病虫害や高温、乾燥にも強い、丈夫な花です。初心者でも簡単に栽培できるため、たいへんポピュラーな花になりました。メキシコ原産の一年草ですが、品種としては、大きくわけて二種類があります。メキシコからスペインを経てアフリカに伝わった品種は「アフリカン・マリーゴールド」、メキシコからやはりスペインを経てフランスに伝わ

った品種は「フレンチ・マリーゴールド」と呼ばれています。「アフリカン・マリーゴールド」は草丈も高く花も大きい系統で、主に切花として栽培されています。現在、日本の花壇によく使われている品種は「フレンチ・マリーゴールド」で、草丈三〇、五〇センチ、花の大きさも五センチ程度の矮性品種です。花の色はオレンジや黄色の他、レモン色、栗色など多様で、一重咲き、八重咲き、クラウン咲きなど形状も変化に富んでいます。以前のマリーゴールドの葉は独特の匂いを発したものが多かったのですが、最近では改良され、それほど強い香りのものは少なくなりました。マリーゴールドからは「カレンジュラオイル」と呼ばれる精油が得られ、りんごに似た香りがします。生産量は多くありませんが、香料等に使用されています。また、花びらに含まれるカロテノイドの一種のルテインが注目され、最近ではブルーベリーとともに目の疲れに効果のあるサプリメントにも多く使用されています。

●話題

### 朝日放送「歴史街道」

四月一日、堺市が政令指定都市になったこともあり、当番組では四月三日から六日まで四回にわたり、歴史を通して堺の町を紹介。第三回の放送では、「物の始まりなんでも堺」のナレーションではじまり、お線香について、その材料になる香木の伝来から現在の製造過程に至るまでを、梅栄堂の工場・ショールームの映像を織り交ぜて放映されました。

### 人気の旅番組が訪問

朝日放送「評判!なかもむら屋」は、関西一円を旅して、店長自らご当地ならではのものを発掘・紹介する番組。五月二十四日放送分では堺の町を探索、梅栄堂のショールームに

も立ち寄り伽羅の香りを堪能。その後、好文庵で香道の体験も楽しめました。

### 「桜を見る会」に招待

平成十八年四月十五日、恒例の総理主催「桜を見る会」が東京、新宿御苑で開催されました。政財界や文化・芸能、スポーツ界など一万一千人が招待され、当社の中田相談役夫妻もお招きを受け、参加させて頂きました。当日は花曇りながらも桜は満開。小泉前首相の挨拶の後、招待客の皆さんとも気楽に握手に



### みのもんたの

### 『おもいきりテレビ』

日本テレビの超人気番組「おもいきりテレビ」で、偶然梅栄堂の「残香飛」が紹介され、それ以来注文が相次ぎ、売り切れ続出。ありがたいことで

したが、品切れでご迷惑おかけしたところもあつたかと存じます。お許し下さいませ。

### 各種新聞に掲載多数

日経流通新聞、福井新聞、神戸新聞の各紙でも、わが社の記事が掲載されました。

●商品紹介

### お部屋にさりげない癒しの香りを

## 煎香茶

緑茶の香りのお線香

ちよつと息いれたい時、お茶が一番ですね。それもそのはず、緑茶にはテアニンという「リラックス効果」に役立つ成分が含まれています。そのほかにもフラボノイドの一種、カテキンの「消臭効果」にも着目。技術を駆使して、緑茶をお線香に練り込みました。ぜひとも煙も控えめの「煎香茶」で、こころ落ち着くひとときをお過ごしください。



●標準小売価格 1,050円  
(本体価格 1,000円)